

過疎山村に住む高齢女性のきょうだい関係

——岡山県鏡野町富地域の事例——

岡山大学 野邊政雄

1 目的

この報告の目的は、過疎山村に住む高齢女性のきょうだい（兄弟姉妹）関係を対面的交際、電話・手紙での接触頻度、ソーシャル・サポートの点から明らかにすることである。

2 方法

岡山県鏡野町富地域（旧富村）に居住する65歳以上80歳未満の高齢女性を全数調査した。2006年2月に個別面接調査を実施。有効票数は104、無効票数は21。回答者に、①回答者が入院した場合の世話、②2～3万円の借金、③仕事上の話や相談、④心配事の相談、⑤失望や落胆をしているときの慰め、⑥留守のときの家の世話、⑦些細な物やサービスの入手、⑧交遊、といった日常生活のそれぞれの状況でサポートを入手できるきょうだいや過去3ヶ月以内に交遊をしたきょうだいの名前をすべてあげてもらった。そのあと、①から⑧の質問で名前があがらなかったきょうだいをすべてあげてもらった。この手続きによって、104人の回答者は261人の別居するきょうだいをあげた。回答者とそれぞれのきょうだいとの関係を分析単位として、データを分析した。

3 結果

(1) 対面的交際頻度と電話・手紙での接触頻度（表1を参照）

(2) きょうだいからのソーシャル・サポートの入手（表2を参照）

表1 対面的交際頻度と電話・手紙での接触頻度を従属変数にした重回帰分析

独立変数	対面的交際頻度		電話・手紙での接触頻度	
	標準化偏回帰係数	相関係数	標準化偏回帰係数	相関係数
回答者側の要因				
年齢	-0.029	0.018	0.024	-0.043
学歴	-0.050	-0.008	0.226	0.232
収入	0.158	0.066	0.109	0.038
活動能力	0.143	0.118	0.084	0.153
就業の有無	-0.091	-0.088	-0.130	-0.081
車・バイクの運転	0.029	0.104	0.008	0.030
同居子の有無(有:1,無:0)	0.080	0.005	0.215	0.126
同居する夫の有無(有:1,無:0)	0.075	0.028	-0.002	0.017
きょうだい側の要因				
年齢	-0.012	0.077	-0.064	0.008
性別(男:1,女:0)	0.606	0.122	-0.172	-0.145
居住場所(近い:1,遠い:4)	-0.288	-0.437	-0.239	-0.180
性別×居住場所	-0.556	-0.100		
R^2	0.297		0.174	

(注) 社会関係を分析単位にして、重回帰分析をおこなった。N=261。

表2 サポートを提供するきょうだい関係の割合

	(単位:%) きょうだい関係の割合
入院時の世話	5.4
借金	6.5
仕事上の話と相談	0.8
心配事の相談	7.3
慰め	11.5
留守時の家の世話	2.7
些細な物・サービス入手	0.8
交遊	10.3

(注) 261のきょうだい関係のうち、回答者にそれぞれのサポートを提供するきょうだい関係の割合を示す。

4 結論

以上から、次の3点がいえる。①きょうだいが近くにいるとき、姉妹よりも兄弟との対面的交際が頻繁であった。きょうだいが遠方にいるとき、兄弟よりも姉妹との対面的交際が頻繁であった。電話・手紙による接触頻度は、兄弟よりも姉妹の方が頻繁であった。②上層の回答者がきょうだいと対面的交際や電話・手紙による接触をより頻繁におこなっていた。③回答者はきょうだいにソーシャル・サポートをあまり期待できず、交遊もあまりしていなかった。